

1 被災地の現状と課題

これまでの取組み（R2～R5）

- ・発災時に策定した「復旧・復興プラン」に沿って、直ちに実施する喫緊の取組み、持続可能な地域の実現に向けた将来ビジョン（中長期的な取組み）を推進してきた。
- ・堆積土砂の撤去や住まいの再建など、安全・安心の確保や生活再建のため、喫緊に取組む必要がある項目を中心に選定した重点10項目については、R5年度末の到達目標を概ね達成。

現状と課題

- ・災害を契機とした人口減少と産業の衰退の危機に直面しており、創造的復興は「復旧・復興」から「地域の再生・発展」に向けた新たなフェーズに移行している。
- ・安全・安心な暮らしに不可欠な川辺川の流水型ダムの完成や、地域の重要な社会インフラである国道219号の復旧、JR肥薩線の鉄道復旧完了の効果を最大限発現させるため、緊迫性をもって創造的復興の取組みを加速する必要がある。

基本理念や目指す姿は継承しつつ、「復旧・復興プラン」を改訂し、現在の地域の実情を踏まえ、**地域の意見を伺いながら、重点的に取組むものを再構成**する。

対象地域

豪雨災害において、特に甚大な被害を受けた球磨川流域市町村と津奈木町を基本とする。

対象期間

プランの期間は定めない。地域の意見や実情を踏まえ、適宜、取組みの見直しを行う。

2 基本理念・目指す姿

基本理念

- ◎生命・財産を守り安全・安心を確保する
- ◎球磨川流域の豊かな恵みを楽しむ

目指す姿

愛する地域で誰もが安全・安心に住み続けられ、若者が“残り・集う”持続可能な地域の実現

3 取組みの基本的方向性

I 「緑の流域治水」の更なる推進による1日も早い安全・安心の実現

◆「緑の流域治水」の推進

- ・「流域治水プロジェクト」「河川整備計画」の推進・情報発信
- ・防災・減災力の強化

◆すまい・コミュニティの創造

- ・安全・安心な住まいの確保となりわいの再建
- ・ふるさとの魅力あふれるまちづくりとコミュニティの形成

◆災害に強い社会インフラ整備

- ・国道219号、球磨川に架かる橋梁等の早期復旧
- ・道路のリダンダンシー確保
- ・JR肥薩線・くま川鉄道の早期復旧



II 若者が“残り・集う”産業・雇用の創出

◆観光を軸とした創造的復興の実現

- ・球磨川と鉄道の2つのラインを活かした県南地域ならではの観光振興モデルの創出
- ・地域の資源とアニメなどの観光コンテンツを活用した賑わい創出

◆地域の特色を活かした産業活性化と雇用の創出

- ・森林資源をフル活用した“緑の雇用”の創出と稼げる農林畜水産業の実現
- ・新たな県営工業団地の整備等を活用した雇用の創出
- ・事業承継の支援など地域経済活性化・雇用機会創出の取組支援強化
- ・環境に最大限配慮した流水型ダム建設を活かした周辺産業の活性化

◆若者が定着・還流する環境の創造

- ・若者が魅力を感じる学びの場の創出
- ・学校と地元企業をつなぐ仕組みづくりやキャリア教育の実施



※プランは「くまもと新時代共創総合戦略」の施策として位置づけ。（4（施策1）「緑の流域治水」を核とした創造的復興）